

## ゴマのマーケティングに関する各種活動

### ・流通業者向け研修とブルキナファソのゴマプラットフォームの実施

デドゥグ（BM州、州都）で11月9日、ボボデュラッソ（HB州、州都）で11月16日にゴマの中間業者（仲買人や産地買い付け人等）約30名を対象にセミナーを実施しました。主なテーマは、Cahier des Charges（ゴマの輸出仕様書）の周知と、日本でここ最近検出されているアフラトキシン対策でした。首都ワガドゥグでは、ゴマの職業間組織INTERSEBがCahier des ChargesをテーマにしたWorkshopを企画していたことから、協力して開催しました。参加者範囲が広いことからブルキナファソのプラットフォームも兼ねることとし、11月14日、15日の2日間で延べ80人が参加しました。



写真11左から：①首都でのセミナー兼ゴマプラットフォームの様子。②HB州でのセミナーの様子。

### ・収穫後処理技術の改良

ゴマを乾燥させる際の乾燥不良により、蒴果の未裂開・カビやカメムシ等の害虫の発生が生じて収穫量の減少を招いているため、10種類の乾燥方法の実証試験をしました。結果、ゴマの束の中心部と外部の入れ替えが非常に重要であること（入れ替えたものは十分に乾燥し、未裂開の蒴果もなし）、シートが効果的であること（入れ替え時ゴマの落下を防ぎ、土壌からの水分蒸発も防ぐ）、その色は青より白の方がその反射光により害虫防除効果があることが分かりました。



写真12左から：①ゴマの乾燥試験の様子。新しい乾燥方法。②改良型ふるいを用いた選別作業の様子。

改良型ふるい（荒目と細目）の試験では、従来のふるいよりも作業時間が短縮し、選別の精度（夾雑物の除去）を大幅に向上させることができました。

### ・残留農薬テスト

農薬の使用量と残留農薬の関連性を検証するテストを実施しました。使用した薬剤は標準濃度および量とし、無処理区、1回処理区（播種後2週間）、2回処理区（播種後2と4週間）を比較しました。結果として全ての処理区でイミダクロプリドは検出されなかったため、標準的な使用方法を守れば全く問題ないことが証明されました。



写真13左から：①イミダクロプリドの2回散布区画。生育良好で病害虫の被害は見られない。②同1回散布区。欠株や、下葉に若干の病害が出ている。

### ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト

プロジェクト事務所  
03 BP 7123 Ouagadougou 03, Burkina Faso  
Tel: +226-67-37-59-80  
Email: projetsesame@yahoo.fr  
http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/005/index.html

### 編集室より

天気予報で「晴れ」「くもり」ではなく、「ほこり」と表示される12月のブルキナファソは、霧に覆われたかのようにサハラ砂漠の砂が舞い降りてきています。2017年の活動もほぼ無事に終わり、あとはデータ整理やモニタリング活動を残すのみとなりました。プロジェクトは終了まで残り2年を切りましたが、課題はまだ多く残っています。今回改訂されたPDMを基に、2018年も活動を進めていきます。

## ブルキナファソ国

# ゴマ生産支援プロジェクト ニュースレター



ブルキナファソ国 農業水利省

独立行政法人 国際協力機構 JICA

### 目次:

第4回合同調整委員会の1  
開催

日本でのゴマプラットフォームの  
開催

雨季試験の結果 2

中核農家への研修とモニタ  
リング 2

ゴマのマーケティングに関  
する各種活動 4

## 第4回合同調整委員会の開催

12月14日（木）、首都ワガドゥグの農業水利省（MAAH）農村経済振興総局（DGPER）内会議場において、「ゴマ生産支援プロジェクト」の第4回合同調整委員会（JCC）が開催されました。JCCとは、プロジェクト実施機関や協力機関、JICA関係者らが集まる、プロジェクトの最上位の意思決定機関です。



写真1上から：①中央は議長を務めたMAAH次官の代理、左はJICAブルキナファソ事務所の小林所長、右はDGPERのZANGRE課長。②会場の様子。

今回のJCCでは、2017年の活動報告、2018年の活動計画と予算承認を行ったのに加え、プロジェクトのPDM（プロジェクト・デザイン・マトリックス。プロジェクト目標や活動内容等が記されたプロジェクトを運営管理するために用いる概要表）の改定を行いました。この改訂は本年6月に実施された中間レビュー評価調査団からの提言でもありました。PDMはプロジェクト開始当初から変更されていなかったため、プロジェクト目標の達成のために、実情に合わせて活動がしやすいように改訂されました。

写真2上から：①2017年の活動報告を行う中垣総括。②活動報告時の会場の様子。



## 日本でのゴマプラットフォームの開催

9月28日、JICA本部主催による第3回ゴマプラットフォームが東京のJICA本部で開催されました。今回は当プロジェクトのみならず、パラグアイ国「小農輸出農作物の安全性向上のための取組強化プロジェクト」の活動報告も同時に行われました。当プロジェクトからは中垣総括、大谷副総括、土方専門家、菊田専門家、松田専門家が参加し、中垣総括よりプロジェクト活動の進捗報告を行いました。



写真3：日本でのゴマプラットフォームの様子。前方はプロジェクトの活動報告を行う中垣総括。

## 雨季試験の結果

7月から実施してきたゴマの各種試験は収穫を終え、いくつか結果が出始めています。

- 品種の形態的特徴調査 (pre-DHS test) は、白ゴマ50品種程度と黒ゴマ15品種を使用して実施し、現在、必要項目の測定中です。
- 普及品種選定のための白ゴマ栽培適正試験として、全国4サイトで既存登録品種 (3種) と比較品種 (1種) と候補品種 (8種) を使用し、白ゴマ特徴調査 (DHSテスト)、白ゴマの収量性評価 (VAT・圃場テスト)、農家嗜好性評価などを実施しました。収量評価では、候補品種のKDG3とGMP3が、登録品種のS42よりも平均収量が高い結果が出ました。嗜好性評価でも延べ324名が評価した結果、既存登録品種よりも嗜好性が高い候補品種 (KDG3など) がいくつかあり、新品種登録に向けての有力候補が示されました。
- 黒ゴマ栽培適正試験は全国3サイトで実施し、現在データの整理中です。
- 収量改善・栽培技術確立のため、播種日試験、播種密度試験、農薬比較試験、虫害耐性評価、病害耐性評価を全国各地の試験サイトで実施しました。播種日試験では、候補品種のKDG3は既存登録品種のS42と同様に中部気候帯では7月中旬～下旬での播種が適していることが分かりました。他の試験は現在データ整理中です。



写真4左から：①白ゴマの農家嗜好性評価の様子 (Makognadougouサイト、9月)。②農家参加型選抜会の様子。品種登録の意義と選抜会の催しについて説明するINERA研究者と土方専門家 (中央) (Pissilaサイト、10月)。

## 中核農家への研修とモニタリング

6月下旬より、ブックル・デュ・ムーン (BM) 州とオー・バッサン (HB) 州で中核農家33グループ (66名) に実施していた実践研修は、圃場での全6回の研修を終え、12月に総括研修を実施してその全ての予定を終えました。

FFS\*研修での3～6回目では、病害虫の観察、成長の比較 (分枝数、蒴果数等)、収穫、乾燥、脱穀、選別等の作業を学びました。また6区画 (施肥の有無、畝の有無など区別したもの) の収量と収益の比較を行い、結果として「認証種子・畝・施肥：○、堆肥<sup>(注)</sup>：×」が最も収益性が高いことが分かりました。

FBS\*研修では、営農手帳の記入指導を毎回行い、各農家のゴマ生産に関する収支の付け方を指導しました。

種子生産研修では、種子生産特有の圃場の設置の仕方、種子監査官がチェックするポイント、収穫後の種子の保存方法や認証を得る方法について、一般の販売用ゴマとは違う手順などを解説しました。

農民組織強化研修では、ゴマの協同組合や生産者組合の長らを講師として招き、ゴマ販売や取り引き、残留農薬問題等について講義し、参加者間で意見交換をしました。

\* それぞれ、FFS=Farmer Field School (農民圃場学校)、FBS=Farmer Business School (農民経営学校) の意味。

注：堆肥の効果は単年度で現れるものではなく、収量自体は堆肥も使用した区画の方がわずかに高い傾向にでしたが、単年の収益性では堆肥のコスト分が結果に影響しました。



\* 研修オフショット\*  
研修には赤ちゃん連れのお母さんも数名参加していました。赤ちゃんは背中におんぶが一般的です。

### • FFS実践研修



写真5左から：①観察方法の指導の様子 (BM州)。②蒴果の数え方を教えている講師 (右) (HB州)。③プロジェクト作成の教材を用いて病害虫の説明をする講師 (BM州)。④乾燥後の脱粒の演習 (HB州)。

### • FBS実践研修



写真6左から：①営農手帳の記入を指導する講師 (右) (BM州)。②営農手帳の記載を個別に確認している様子 (HB州)。

### • 種子生産実践研修



写真7左から：①異品種の見分け方を説明する講師 (右) (HB州)。②種子貯蔵庫で保存袋の記入方法を説明する講師 (BM州)。

### • 農民組織強化研修



写真8左から：①協同組合長を講師として招いた (HB州)。②BM州の生産者組合代表 (右) を招いてゴマの販売について意見交換した。

### • 総括研修



写真9左から：①今期のFFSのまとめを行う講師 (BM州)。②修了証書授与の様子 (中央が中核農家) (HB州)。

### • モニタリング

中核農家が研修で学んだ内容を、彼/彼女らが各自のコミュニティで一般農家に対して技術移転を行っているかのモニタリング調査は来年2月まで継続して実施予定です。モニタリングのポイントは、中核農家のFFS/FBS研修実施状況、中核・一般農家の技術適応状況、中核農家の認証種子生産の進捗確認の3点です。対象の一般農家は全33グループの845名で、これまでの調査で約6割の一般農家が研修に参加していることが判明しています。



写真10：中核農家が所属するコミュニティ (村) を訪問して調査を実施している様子。